



IMAGINE ROTARY

＜本年度クラブ会長方針＞ WEEKLY REPORT No.1609
ロータリーライフを楽しみ、
クラブの持続的成長を図ろう

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日12:30 例会場 名古屋東急ホテル
会長 加藤巳千彦 事務局 名古屋市中区栄4-7-10 栄第8ロイヤルビル6F
幹事 吉田憲一 電話(052)251-0181 FAX(052)251-0337 〒460-0008
URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org

第1884回例会

水と衛生月間

令和5年3月9日(木)

新会員卓話

於名古屋東急ホテル

会員58名

出席計算数

54名中42名出席

出席率 77.8%

前々回出席率 84.7%

91.7%

例会プログラム

★ロータリー財団PDF表彰

・認証バッジ贈呈

★前田社会奉仕副委員長

・大須なつフォトコンテスト
授賞式案内

★杉本忠夫さん

・会葬のお礼

★新会員卓話

★ロータリーソング

「大須ロータリーソング」

(歌唱なし)

★ピクチャー

★浅野彰さんゲスト

中部名古屋みらいRC

18-19年度会長 辻 和余さん

★ニコボックス

西脇さん、本日の新会員卓話楽しみにしています。

加藤巳千彦

吉田 憲一

妻の死去に際し、皆様からの厚情に感謝申し上げます。

杉本 忠夫

今月11日は私共の金婚式です。

吉田 隆彦

西脇さん、新会員卓話楽しみにしています。

岡部 快圓

尾上 昇・藤田 澈

横井 衛・岡村 隆徳

丹下 富博・大上 晃延

川島 勇基・川合 美幸

仲林 宏昌・深谷 昭広

奥様の誕生日です。岡部 快圓

西脇さんお話し、ファイトです。結婚記念月です。

近藤 明美

本日、新会員卓話よろしくお願ひします。

西脇 良輔

ゲストの辻和余さん、いらっしやい!!

浅野 彰

啓蒙や 僕の後遺症 三桁病

岡田 尚彦

丹下さん、加藤さん、昨夜はありがとうございました。

林 順治

結婚記念月です。

草野 勝彦

★会長挨拶

★会長 加藤巳千彦

皆さん、こんにちは。昨日までインドネシアのジャカルタに出張しておりましたが、名古屋に帰ってきて随分暖かくなったので驚きました。成田空港経由でセントレアに帰ってきたのですが、セントレア行きは便まで2時間半以上あったため、展望デッキで飛行機を眺めていましたが防寒具が必要ないほど暖かかったです。これほど



暖かいと、今月末の大須観音での観桜会で満開の桜の花が観られるのか心配であります。

それは本日のゲスト・ピクチャー紹介をさせていただきます。本日のゲストは浅野 彰さんのゲストで中部名古屋みらいRC、18-19年度の会長を務められた辻 和余さんです。名古屋大須RCの例会を楽しんでいってください。

さて、本日3月9日は「記念切手記念日」です。1894年(明治27年)3月9日に日本で最初の記念切手が発行されました。明治天皇・皇后陛下のご成婚25周年を記念して発行され、菊の紋章に雌雄の鶴2羽が描かれたデザインで、



出典：国立印刷局ホームページ
<https://www.nippon.gov.jp/>

銭と青色で外地用(外国用封書用)の5銭の2種類でした。

当時日本には記念切手の概念がなく、銀婚の祝典を記念する切手を望んだ在留外国人の新聞投稿によって政府が動き、逓信大臣であった黒田清隆の命で急遽発行されることとなったものであります。祝典まで1カ月を切るなか印刷局は不眠不休で作業にあたり、通常1-2カ月しかかかるとは原稿を5日で仕上げました。その記念切手の大きさは縦29mm×横17mmで、当時の普通切手の約2倍の大きさがあり、菊花紋の周りには「IMPERIAL WEDDING 25 ANNIVERSARY」と発行趣旨が表記されています。

日本では昭和時代初期まで記念切手は数年に一度しか発行されておりました。記念切手は2種または4種のセットで発行され天皇即位・立太子の礼など皇室関係の慶事を記念したものや明治神宮や伊勢神宮などの国家神道に係るものが主でありましたが、第一次世界大戦終結を祝う平和切手や第15回赤十字国際会議の記念切手なども発行されてきました。第二次世界大戦後は毎年のように発行されるようになり、現在では毎年数十種前後の記念切手が発行されています。

今日も一日、皆が笑顔で楽しく過ごせますように。1清聴めりが

うらやまです。

2016年 「記念切手発行」

■新会員卓話
「人々の生活を大切に」

西脇 良輔さん



皆様、こんにちは。昨年の12月より入会いたしました、西脇良輔と申します。本日は新会員卓話の場を頂き、誠にありがとうございます。今回は、自己紹介を兼ねた内容でお話させて頂き、私という人間を知って頂きたいと思っております。まずは、自己紹介をさせて頂きます。名前は西脇良輔と申します。1983年8月18日生まれの1のしし年、しし座です。3歳年上の妻と10歳、7歳の息子の4人家族です。趣味は、ゴルフと体を動かすことが好きなので、スポーツの機会がございましたら、いつでもお誘いください。私の好きな言葉2つを紹介させて頂きます。

1つ目は、一期一会です。この

言葉は、後ほどご説明させて頂きます。

2つ目は、人生はチョロチョロの箱、開けてみるまで分からない。フォレスト・ガンプという映画で有名なセリフです。意味は、やってみて初めて分かることが沢山ある。年を重ねていくと、何かをやる前からやらない理由を考えるようにならないでしょうか。私はこの言葉を胸に、先入観や固定概念を持たず、様々な事に挑戦してきました。本日はその経験をお話したいと思いますが、先に、私の会社の概要をお伝えします。

弊社、株式会社ニシワキの前身となる会社、有限会社西脇蒲団店の創業は、1983年、今年創立30年になる古い会社です。創業当時は蒲団の製造販売を行っておりました。初代の西脇丈助が布団をレンタルするという事業を初めて行った人物で、「貸し蒲団」というビジネスのパイオニアと言われています。弊社は、この時代から一般ユーザー向けに貸布団を行って

・1893年 創業、「貸し蒲団業」の誕生

・1935年 蒲団製造一貫工場の設立
・1953年 有限会社西脇蒲団店に組織変更
・1963年 病院向け寝具業務の始まり

・1989年 福祉用具販売、レンタル業務の始まり
・2008年 有限会社西脇蒲団店を新設分割、株式会社ニシワキ設立

おり、未だに継続されています。

2代目の西脇むめのは、1985年に蒲団製造の一貫工場を名古屋の北区に設立しました。この工場では原綿(ミナゴ)が混入している収穫された綿や落綿糸を作る時に破壊される綿から布団を作ったり、布団の打ち直しリホームを行いました。その後3代目西脇正勝が事業を引き継ぎますが、空襲を受け、弊社の工場や会社は焼失されました。この代を境に会社が組織化され事業を拡大していきます。黒部ダム工事に布団を貸し出したリ、医療関係のリネンサプライを開始しました。1983年病院向け寝具リースを始めます。貸布団とは違い、高い衛生基準をクリアしなければならぬ業務でしたが、弊社は日本でもいち早く業務をスタートしました。1989年介護ベッド、介護用品及び福祉機器の販売・レンタル業務を開始します。介護保険を利用して福祉用具をレンタルするサービスの先駆けになる業務でした。

5代目西脇良子の代(現社長)で、エヌ・エス株式会社を設立し、2008年に有限会社西脇蒲団店を分割し、株式会社ニシワキを設立。エヌ・エス株式会社を関連会社とするグループになりました。弊社グループは、特に介護現場を取り巻く様々なサービスを独立した部署がサポートします。各部署は業

1 寝具・福祉用品販売、レンタル
 2 医療・福祉施設向けサービス
 3 ホームケア
 4 寝具クリーニング
 5 在宅介護支援

務をより専門的に

行うことで、様々な顧客のニーズへ対応することができ、グループとしては今年創業30年目。株式会社ニシワキの従業員87名、エヌ・エス株式会社の従業員85名でグループを支えています。さて、私の経歴(人生を振り返り、人との出会いについてお話したい)と思えます。生まれてから18歳までは名古屋で過ごしました。幼稚園、小学校は愛知教育大学付属名古屋幼稚園、小学校で過ごしました。運動が好きで子供で小学校中学年まで野球とサッカーのクラブに入っており、毎日クラブ活動に行っていた記憶があります。5年生から受験勉強を優先し昼夜勉強をする小学校時代を過ごしました。ちょうどこの頃に私の母親が社長に就任し、子供の世話をしながら懸命に働く姿を今でも覚えています。私も子供ながらに、応援してくれる母親の期待に応えることに必死

だったと記憶しています。

中学、高校は名古屋市東区にある東海中学、高校で青春時代を過ごしました。小学校の頃はクラスでも勉強ができる存在でしたが、中学に入った途端、周りの頭脳レベルの違いに衝撃を受けたことを覚えていてます。中学時代は、野球部に所属し練習に明け暮れる毎日

を過ごした結果、勉強が追い付かないことに気づき、成績は右肩下がりに落ちていきました。大学受験の時期になり、いざ受験勉強と思い奮起した時もありましたが、約6年間勉強をしてこなかったっけは大きく、非常に大変な思いをした記憶があります。実際、赤点の教科があり高校の卒業式には参加できず、校長室で当時の村下校長、私の両親、私の4名で卒業式を行ったことを覚えてます。その際、村下校長が私にかけてくれた言葉が、夢を持ちなさいでした。夢を持ち、それに邁進しなさい。夢がないなら、興味があることをやってみて夢を見つけたらいいと言われました。その言葉が元々興味があつた海外留学へ行くことを後押ししてくれました。

18歳、26歳までは海外で過ごしました。自分がやりたいこと、やってみたくらいことを真剣に考える時期だったと、今振り返ると思っています。日本の大学進学を辞め中国の上海に留学しました。中国語を全

く知らない中で、単身生活は、日々刺激的で様々な人に助けられました。中国の生活を経て、人とのかわり方を学んだ気がします。相手を思いやり、接することで、言葉が通じなくても意思疎通できると実感しました。あと、自己主張をしないと中国では生きていけないと痛感しました。

8ヶ月ほど中国で過ごした後、SARSという感染症が大流行し、やむを得ず日本に一時帰国します。中国から帰国後、中国で知り合った韓国系アメリカ人を頼りに、単身アメリカ留学することを決めました。最初の半年間は語学学校に通い、すぐに短大に入学しました。

この短大から4年大に転入したいと思い、必死で勉強をしました。多分、人生で一番勉強をした時期だと思っています。また、ボランティア活動にも積極的に参加し、孤児院やホームレスの支援など様々な経験を積んだ時期でもあります。この頃が人生で一番自由で、色々なことにチャレンジしていた時期だと思っています。ゴルフを始めたのもこの時期でした。

短大を一年半ほどで卒業し、南カリフォルニア大学(USC)という大学に転入します。この大学がカルフォルニア州で唯一ビジネス学部がある大学で、ロサンゼルス、ダウンタウンにあり私立大学です。アメリカの生活を経て、個人の



多様性を認め、他人を尊敬することを教わりました。先入観や固定概念にとらわれず、物事の深層を見つめることの重要性に気づかされました。この頃初めて夢を持つことができました。投資銀行に就職し、アメリカで生活をするのが私の夢となり、必死に勉強し、就職活動に励みました。しかし2008年9月にリーマンショックが起こり、金融業界への就職はあきらめざるを得ませんでした。夢が叶うことはありませんでした。夢に向かって精一杯努力した経験は、今でも私の中のチャレンジ精神として生きています。

最後に、私の好きな言葉に「一期一会」という言葉があります。生涯に一回しかないチャンスと考えて、そのことに専念するという意味です。私の経歴、人生を振り返り、特に人との出会いは、私にとって宝であり、人生を大きく変えるできごとだと思っています。私の経歴がユニークな分、色々な人と出会っ

て、支えて頂き、今の自分があると思います。

今回、ご縁があって大須ロータリーに入会させて頂き、皆さまと出会うことができました。皆様は、より親睦を深め、奉仕活動に邁進していきたいと思っています。若輩者ではございますが、今後でもご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。とりとめのない話となり、申し訳ございませんが、これをもって私の卓話を終わらせて頂きます。ご清聴ありがとうございました。

ロータリー財団PHF表彰

・マルチプル・ポール・ハリス・フェロー(1回目)
近藤 明美さん
大上 昇延さん

ロータリー財団よりポール・ハリス・フェロー認証バッジ(マルチプル・1回目)が近藤明美さん、大上昇延さんへ贈られ、加藤巴千彦会長より手渡されました。多額の寄付を頂きありがとうございます。

マルチプル

ポール・ハリス・フェロー
年次基金、ポリオプラス、承認された財団補助金のいずれかに1,000ドル以上を寄付し、ポール・ハリス・フェローになった後、追加寄付をしてフェロー回数累計1,000ドルを重ねた人。



その他・お知らせ

水と衛生月間 リソースのご案内
Water, Sanitation and Hygiene Month

水と衛生

「安全な水と衛生設備の利用は、すべての人がもつべき権利。」
ロータリーは世界の人のひとに安全な水と衛生設備を提供し、衛生や伝染病予防教育も行っています。コミュニティの生活環境や教育の改善に努めます。

ロータリーとUSAIDのパートナーシップ

ロータリーは米国国際開発庁(USAID)とパートナーシップを結び、水と衛生プロジェクト



の改善を通して長期的な変化をもたらすことを目的とする「国際H2O協力」を進めています。パートナーシップ上でのロータリーの役割、現地での取り組みを紹介(英語)しています。

国際ロータリー・ニュース
「分断された国民がロータリーの
水プロジェクトでつながる」
2023年6月7日

とあるバノン北部の学校で、生徒たちが水道の蛇口から水を飲み、洗面台で手を洗うために列を作っています。水の多くを供給する雪化粧の山々からそう遠くはありませんが、かつてこの地の生徒たちにとって、それは稀で贅沢なことでした。

「以前、この水には細菌が含まれていたため飲めませんでした」。国内第一の都市トリポリにある高校の校長、ナヒラ・ハベッティさんはそう説明します。生徒たちは家庭で用意するには高価すぎるペットボトルの水に頼らざるを得ませんでした。不衛生な水で病気になる、学校を休まざるを得なくなつた生徒もいました。

そこで2022年、トリポリ・コスモポリスRCCと、スイスのシュネーフ・インターナショナルRCCは、グローバル補助金を利用して新しい浄水システムを学校に設置しました。「今では欠席者も減り、いろいろなことが改善されました」

とバベッティさんは話します。昨年、レバノン北部で1993年以来の「コレラの発生があっただけに、学校関係者は安堵しました。今後のあらゆるプロジェクト、特に健康に関するプロジェクトでロータリーと協力していきたい」とバベッティさん。

2013年、レバノンの約20のロータリークラブが結束し、他団体やレバノン政府とのパートナーシップの下、グローバル補助金を利用した数年にわたるプロジェクトを実施し、国内ほぼすべての学校に安全な飲み水を提供してきました。昨年5月には、この活動の対象となった1,000校以上の学校のうち、最後の1校に浄水フィルターとタンクが設置されました。レバノンは中東の国の中では比較的水源が豊富ですが、インフラの老朽化や管理の不行き届きから安全な飲み水の確保が長年の問題となっていました。山から流れて



レバノン北部の学校で、新たに設置された浄水フィルターを通して得られた水を飲む女の子
写真提供：Rym Dada-Husseini

くる水は河川に入り、「ゴミや産業廃棄物、農薬などによって汚染されます。処理された水道水も、腐食したパイプや貯水タンクによって、蛇口へ届く前に汚染される」とがよくあります。さらに、シリア難民の流入により、水資源はさらに圧迫しています。

そのため、スカルタ・ザウィエ・RCCのジャミール・ムアワドさんは、13-14年度ガバナー就任に向けて持続的な成果をもたらす大規模プロジェクトを模索したとき、すぐに「水」を優先事項とすることを決めました。レバノン北部の複数ロータリークラブが既に貯水タンクと浄水フィルターの設置を行っていたので、ムアワドさんは政府リーダーや団体代表者と会談し、この活動を全国に拡大する可能性を見いだして委員会を結成しました。「最初はこれを3年で完了したいと言ったのですが、プロジェクトが大きいだけに、そう簡単にはいきませんでした」とムアワドさんは振り返ります。「結局8年を要したのですが、最終的に特大の成果をあげることができました」

200のグローバル補助金を経て、レバノンにいる推定60万人の子どもの半数はシリア難民、そして生徒の両親や教師が安全な飲み水を利用できるようになりました。しかし、このプロジェクトがもたらしたものは、水だけではあり

ません。それは、紛争で引き裂かれた土地に、平和の種を蒔くことです。レバノンは1975年から1990年にかけて宗派と関係する内戦に見舞われ、国土は大きく分断されました。現在では18の宗派が、近隣諸国の干渉を受けながら、分裂した政治体制の中で権力を争っています。このプロジェクトは、南北両側の学校に水道を設置するために、国内のさまざまな地域のロータリークラブが協力し、派閥間の協力を促進するように意図的に設計されています。

「ロータリーの良さは、宗教や政治に影響されないこと」と話すのは、2件のグローバル補助金を先導したトリポリ・コスモポリス・RCCの元会長、リム・ダタ・フセイニさんです。「私たちは、人として互いに向き合います。みんなが大きな家族で、この国のためにベストを尽くしたいと思っています。これが私たちが団結させたもので、これからも団結させるものです」

ロータリーは協力して物事を成し遂げる力があるため、国内のほかの団体や住民から信頼を得ていると、ムアワドさんは指摘します。「ロータリーは良い評判を築いているので、大きな団体に呼びかけても、すぐに支援を得ることができず」

このプロジェクトは、これ以上ないほど良いタイミングで実現し

ました。コロナ禍に加え、経済崩壊によって国の大部分が貧困に陥り、現地通貨は2年間で90%以上価値が下落しました。

2019年からは、新たな税制措置により、社会的・経済的権利と汚職撲滅を求めるデモが数万人単位で街頭に繰り出しました。2020年にバイルート港で起きた爆発事故では、200人以上が死亡し、30万人が家を失い、さらに緊張が高まりました。また最近ではエネルギー危機により、大半の家庭で1日に1〜2時間しか電力が供給されなくなりました。この混乱により、何百万人も人びとの安全な水の利用がさらに困難になっています。一時は悲惨な状況になり、UNICEF（国連児童基金）が2021年に「この国の水道は崩壊寸前だ」と警告したほどです。

政府が解決してくれるという希望を多くの人が失っている、とダタ・フセイニさんは話します。「多くの人が国外に出て行ってしまいました。私たちの心の支えは、自分たちが人びとのために役立っているという実感です」。例えば、水プロジェクトは、生徒だけでなく多くの人にインパクトをもたらします。今では、学校は家族にとって最も信頼できる水源となっており、多くの生徒がボトルに水を入れて持ち帰っているのです。

数字で見るインパクト

- 175万ドル
このプロジェクトに投じられたグローバル補助金の額
- 1,000以上
支援を受けた学校数
- 48%
レバノンで安全に管理された水を利用できる人口の割合

トリポリ・コスモポリス・RCCによるプロジェクトは、レバノン北部と南部のサイダ地区の学校を対象としたもので、このイニシアチブの集大成の一つです。

執筆: Arnold R. Grahni / Rotary International (国際ロータリーHAY)

3月23日(木) 例会の案内
定款規定により休会

3月30日(木) 例会の案内
卓話
「高等教育を取り巻く現状」
—名城大学の事例報告—
名城大学学長 学長
小原 章裕さん
紹介者: 丹下 富博さん

4月6日(木) 例会の案内
ロータリー版私の履歴書「例会」
照井 菜さん
渡辺 観水さん

4月13日(木) 例会の案内
地区研修・協議会報告

公共イニシアジ向上委員会
木村 光徳・近藤宏一郎
萩原 賢一・藤田 澈
*本文は、原則、頂いた原稿を転載しています。